

問い合わせ先
第五管区海上保安本部
警備救難部環境防災課長
榎本 雄太
078-391-6554(内線3310)

平成17年1月27日
第五管区海上保安本部

神戸港地震津波対策総合防災訓練の実施について

第五管区海上保安本部（本部長 萩原博美）は、今世紀前半に発生が懸念されている東南海・南海地震による地震・津波災害へ対応するため、近畿地方整備局、神戸運輸監理部、海上自衛隊、神戸海洋气象台、兵庫県警察本部、神戸市消防局、兵庫県等と連携して、神戸港における総合防災訓練を下記のとおり行います。

訓練では、地震・津波の来襲に伴い沿岸部で発生した大量漂流者を、各機関所属航空機・船艇の連携による救助訓練を実施するほか、火災船舶消火、旅客船乗客避難、排出油防除等の訓練を実施します。

記

1 実施日時

平成17年1月31日（月）午後1時30分から（約1時間30分）

2 実施場所

神戸港第一区（中突堤、新港第一突堤周辺：別図参照）

3 訓練参加機関等

（1）参加機関

海上保安庁（第五管区海上保安本部、神戸海上保安部、関西空港海上保安航空基地）、近畿地方整備局（神戸港湾事務所）、神戸運輸監理部、海上自衛隊（小松島航空隊、阪神基地隊）、神戸海洋气象台、兵庫県警察本部（神戸水上警察署）、神戸市（消防局、みなと総局）、兵庫県、その他民間会社

（2）参加勢力

船艇13隻、航空機4機、消防車1台、人員約200名

4 訓練内容

（1）訓練想定

紀伊半島沖を震源とするM8.5の地震が発生、兵庫県下においては震度5強を記録し、津波警報が発令。地震動により神戸港港湾施設の倒壊等の被害が発生したほか、2mの津波の来襲により多数の市民が海上に投げ出された。また、津波・地震動により船舶火災の発生、油の海上流出等の被害が生じた。

(2) 訓練項目及び実施概要 (別図参照)

情報伝達・避難勧告実施訓練

海上保安庁ヘリコプターによる画像伝送、海上保安庁巡視艇、警察警備艇による避難勧告を実施。

岸壁孤立者救助訓練

海上保安庁、消防、民間の船艇が連携して、岸壁に取り残された孤立者を救助。

旅客船乗客避難訓練

旅客船「ルミナス神戸2」は、入港接岸中、津波警報の伝達を受け、本社の指示により着岸後、乗客の避難誘導を実施。

大量漂流者救助・搬送訓練

大量の海上漂流者を、海上保安庁、自衛隊、消防、警察が連携して、ヘリコプター、船艇、陸上から次々に救助。

火災船舶消火訓練

係留中の船舶から火災が発生した想定で、海上保安庁、消防が連携して、船艇、消防車により消火活動を実施。

排出油防除訓練

陸上の石油タンクから重油が港内に流出した想定で、海上保安庁、近畿地方整備局、消防が連携して、高粘度油対応油回収装置 (巡視船とさ搭載)、油回収船 (紀淡丸)、海面放水により排出油防除活動を実施。

5 取材のご案内

(1) 巡視船に同乗しての取材

巡視船せつつ (第五管区海上保安本部本部長等訓練指揮部乗船) に乗船しての取材が可能のほか、当日は取材専用巡視艇を用意しており、巡視船せつつへの送迎、巡視艇から、海上での訓練模様の至近から撮影取材が可能です。

乗船取材を希望される方は予め社名、氏名、連絡先を第五管区海上保安本部環境防災課にご連絡いただくとともに、出港時刻までにお集まりいただくようお願いいたします。

巡視船せつつ 出港午後0時30分 入港午後3時30分頃 (神戸港新港第一突堤西側岸壁)

取材専用艇 出港午後1時 (神戸第二港湾合同庁舎南側船溜まり)

入港時刻は報道関係者のご要望に応じて調整できます。

(2) 陸上からの取材

本訓練は岸壁近くで実施するため、陸上からの撮影取材が可能です。別図訓練実施場所に撮影に適している場所を表示しています。

別図

「神戸港訓練実施場所図」

★ = 撮影に適していると思われる場所

